

新潟県における弥生時代の家と村

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 滝沢規朗

海岸線の総距離が約300kmを有する新潟県は地域・時期毎に土器様相が異なる。ここでは地域を7つに、時期は3つに大別して必要に応じて細別する(第1図・第1表)。時期区分は集落・遺跡の消長をおおむね反映しているが、地域区分は便宜的なもので土器様式を十分には反映していない。弥生時代の建物は、23遺跡で100棟程確認できる。建物を平地と竪穴に大別し、柱穴配置や施設等で細別したが、属性は重複しており区分・系譜に問題を残す。遺跡の立地は丘陵上と低地の大別にとどめた。建物の大きさ・平面形は検出状況が良好なものの数値で認定した(第3・4図)。以下、時期区分毎に概要を記す(第6図)。

時期区分1：遺跡数は少ない。検出された遺構は再葬墓が主体であったが、丘陵上の尾立遺跡(信濃川右岸)・低地の猫山遺跡(阿賀北)で掘立柱建物が確認できる。いずれも柱の掘り方が大きく、独立棟持柱を有するものが目立つ。猫山遺跡の建物1は落棟式で、縄文時代晚期後葉から集落構成を開始する青田遺跡・藤平遺跡で類例が認められる(第5図)。この両遺跡は竪穴建物を伴わない点でも共通する。当該期の建物は縄文晚期後葉からの系譜を継承する段階との指摘がある[渡邊2005]。

時期区分2：遺跡跡が増加する。建物が検出された遺跡はいずれも低地で、道端遺跡(阿賀北)・下谷地遺跡(柏崎平野)・吹上遺跡(頸城)・平田遺跡(佐渡)・来清東遺跡(魚沼)がある。道端遺跡・来清東遺跡とそれ以外で様相が異なり、緑色凝灰岩製の細形管玉を生産する3遺跡は円形の広溝式平地式建物に掘立柱建物が伴う。掘立柱建物は時期区分1のものに比べて柱穴が小さく、独立棟持柱を欠くなどから別系譜であろう(第6図)。平田遺跡で掘立柱建物を欠くが、これは狭小な調査面積が起因すると考える。

広溝式平地式建物は灰穴炉主体で、阿賀北と信濃系土器主体の魚沼まで分布していない。分布圏外の両遺跡で竪穴建物が検出された点、地床炉である点を重視したい。なお、竪穴建物は吹上遺跡でも確認されているが、いずれも玉作り工房と認識されており、道端・来清東遺跡例とは同一視できない。

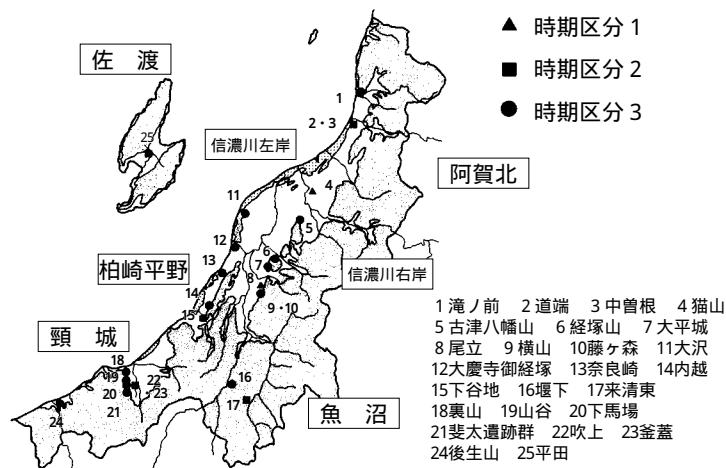
時期区分3：細別の2期に丘陵上で遺跡数が飛躍的に増加する[滝沢1999]。竪穴建物が圧倒的に多く、掘立柱建物は明確でない。広溝式平地式建物は低地(頸城・子安遺跡)でのみ存在する。竪穴建物の平面プランは東北系土器圏の阿賀北は円、北陸北東部系土器圏は隅丸方形を主体に、長方形プラン・多角形プランが頸城でのみ認められる。北陸北東部系土器圏の竪穴建物は、隅丸方形・主柱4本を基本とする。大型では多角形・主柱多角、主柱4本+支柱が、小型は主柱2本・なしが多い。地理的に信濃の影響を想定したい。地域毎の動向として、細溝式竪穴建物が信濃川流域の両岸でのみ確認されること、支柱穴が確認できるのは信濃川左岸・柏崎平野と比較的海岸に近い点などがある。

屋内貯蔵穴は規模に係わらず2期から認められる。屋外貯蔵は穴蔵と思われ、布掘りの掘立柱建物は確認できない。穴蔵は方・円形プランで、集落内で2基が隣接する例が確認できる。研究会当日に話題となった環状小溝遺構は、丘陵上の奈良崎遺跡等(信濃川左岸)や、低地の遺跡で確認でき、今後類例は増加すると考える。

【主要引用文献】

滝沢規朗 1999「第3章第3節 集落」『新潟県の考古学』

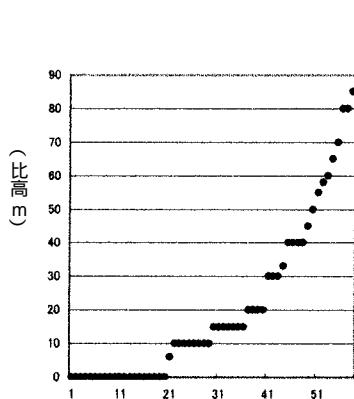
渡邊裕之 2005「新潟県の事例(下越)」『中部弥生研究会第11回例会発表要旨(当日資料)』



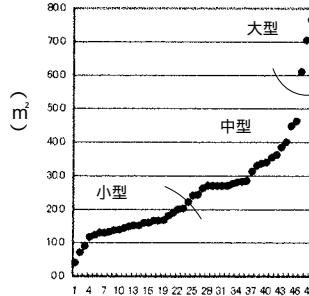
第1図 県内の弥生集落分布図と地域区分

第1表 時期区分と併行関係

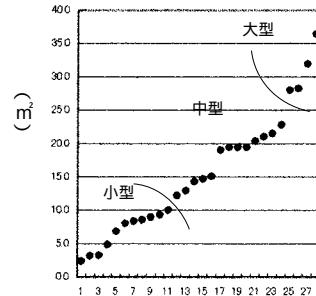
本稿	越後			北陸		北陸(南西部)型式
	渡辺 1999	笹沢 2006	滝沢 2005	田嶋2007		
大別	細別	区分	前期	中期1	中期2	
区分1						
区分2			I期			小松
			+ II期			磯部
						専光寺～戸水B
区分3	1期			V-1 V-2 V-3	1群	猫橋
	2期				2群	法仏
	3期				3群	月影
4期					4群	
5期					5群	白江
6期					6群	



第2図 弥生時代後期
(時期区分3)の遺跡立地

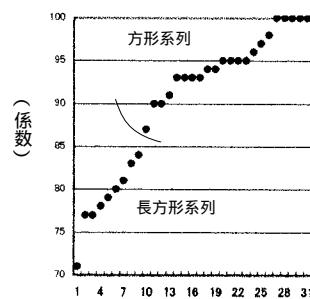


竪穴建物

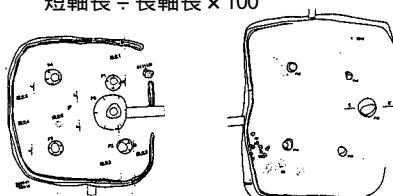


掘立柱建物

第3図 竪穴建物・掘立柱建物の床面積

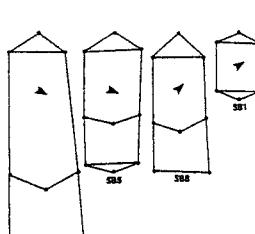


短軸長÷長軸長×100

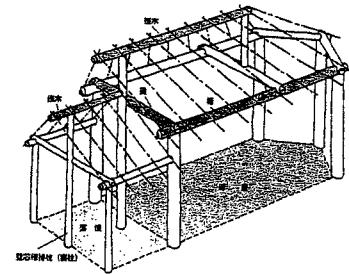


方形系列 (係数100・下馬場3号竪穴) 長方形系列 (係数77・裏山1号竪穴)

第4図 竪穴建物の平面形



青田遺跡



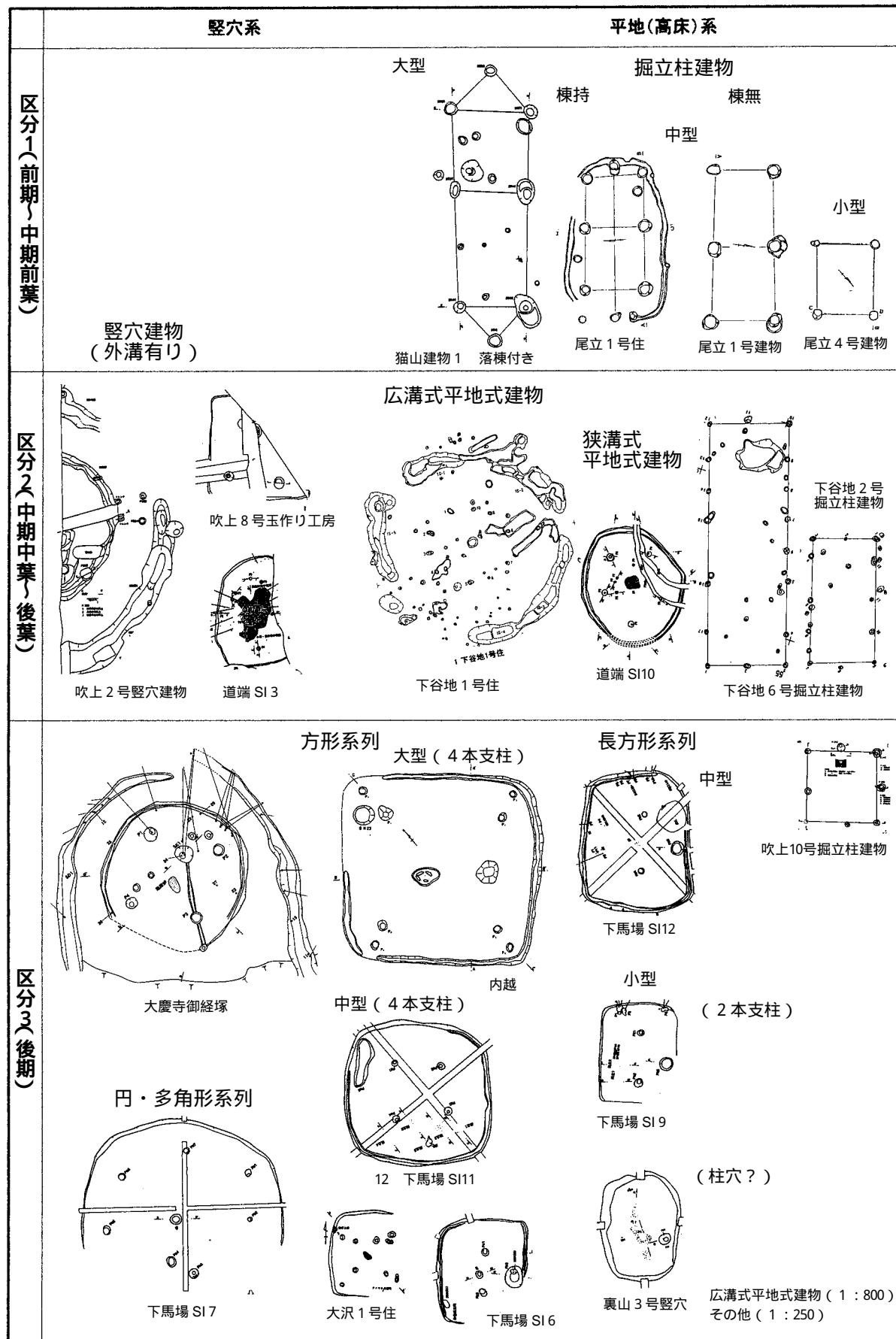
落棟付き(宮本2002より)

第5図 縄文時代晩期後葉の掘立柱建物

第2表 地域別建物の組み合わせ

時期区分	阿賀北	信濃川右岸	信濃川左岸	柏崎平野	魚沼	頸城	佐渡
1	掘立柱建物	掘立柱建物					
2	狭溝式平地 竪穴(楕円)			広溝式平地 掘立柱建物	竪穴(円)	広溝式平地 掘立柱建物 竪穴(円・方)	広溝式平地
	【東北・北陸】	【北陸】	【北陸】	【北陸】	【信濃】	【北陸・信濃】	【北陸】
3	竪穴(円)	竪穴(隅丸方)	竪穴(隅丸方)		竪穴(楕円?)	竪穴(隅丸方・長方形) 掘立柱建物	広溝式平地
	【東北】	【北陸・北東】	【北陸・北東】	【北陸・北東】	【東北・信濃】	【北陸・北東】	【北陸・北東】

【 】内は主体となる土器の地域性



第6図 建物の変遷